

第6節 美術

第1 本資料の活用について

1 作成の基本的な考え方

本資料は、中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、埼玉県中学校教育課程編成要領、同指導資料の趣旨及び内容に基づき各学校における美術科の指導計画及び学習指導と評価の改善・充実に資するために作成したものである。特に、「児童生徒の学習評価の在り方について」(平成22年3月24日 中央教育審議会)の報告、「評価規準の作成のための参考資料」(平成22年11月 国立教育政策研究所)で示された学習評価の基本的な考え方をもとに、生徒一人一人に「生きる力」をはぐくむための学習評価の在り方について具体的な例を示し、各学校で行う評価方法・評価規準作成のための指針とすることを目的としている。

自ら学び、自ら考え、よりよく問題を解決する資質や能力などを育成することや基礎・基本の確実な定着を図ること、個に応じた指導の一層の重視などから、目標に準拠した評価が強く求められている。そのための評価規準や評価方法について、各学校が実際に学習評価を行う際、指針となるものを示した。

各学校では、生徒・学校及び地域の実態に応じて、指導計画に基づいた学習指導を展開し、生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導の改善に生かすために本資料を参考・活用されたい。

2 取り上げた内容

本資料の作成に当たっては、美術教育を通して美術の基礎的な能力を伸ばし、自ら学ぶ意欲を育て、豊かな人間形成が図られるよう指導と評価の一体化に配慮した。

本資料は、次の内容によって構成している。

第1 本資料の活用について

- 1 作成の基本的な考え方
- 2 取り上げた内容
- 3 本資料の活用にあたって

第2 美術科における学習評価

- 1 美術科における学習評価の考え方
- 2 美術科における学習評価の観点の趣旨
- 3 美術科の評価規準の設定
- 4 内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例

第3 指導と評価の実際

評価事例1	「発想や構想の能力」と「美術への関心・意欲・態度」に焦点を当てて評価する
評価事例2	「創造的な技能」と「美術への関心・意欲・態度」に焦点を当てて評価する
評価事例3	「完成した作品」に焦点を当てて評価する
評価事例4	「鑑賞の能力」と「美術への関心・意欲・態度」に焦点を当てて評価する
評価事例5	自己評価と相互評価の方法

第4 教師の評価の方法

- 1 学習評価の方向性
- 2 美術科における観点別学習状況の評価の時期と学習評価の在り方
- 3 具体的な学習評価の方法

第5 美術科における学習評価の評定への総括例

- 1 観点別学習状況の評定と評定
- 2 題材ごとの観点別学習状況の評価の総括例
- 3 学期ごとの観点別学習状況の評価及び評価の総括例

3 本資料の活用にあたって

目標に準拠した評価を適切に行うためには、美術科のねらいや育成しようとする資質・能力、学習評価の在り方と評価方法などについて改めて確認することが肝要である。本資料では、それらについて順序立てて改めて考えていくとともに、評価方法に焦点を当てた授業の事例を取り上げて解説している。

各学校においては、美術科の趣旨を十分に生かし、適切な年間指導計画及び学習評価の計画を作成するとともに、生徒が自ら学び主体的に活動できる授業を創造していくことが求められる。その際、本資料を参考にしながら研究を進めていただき、特に、実際の学習評価にあたっては、設定した規準に機械的に当てはめることなく、学習過程の中に見られる生徒一人一人のよさを積極的に把握し、適切に評価できるよう、本資料の意図を十分にくみ取り、日々の学習指導の参考にさせていただきたい。

第2 美術科における学習評価

1 美術科における学習評価の考え方

中学校美術科は、単に絵の描き方やものづくり方を学ぶ教科ではない。表現や鑑賞の活動を通して、生徒が生涯にわたって造形や美術と豊かにかわり、生活を心豊かなものにしていくための基礎となる力を身に付けていくことが大切である。そのためには、学習指導要領の趣旨を理解し「発想や構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」及び「美術への関心・意欲・態度」を指導の中で明確にし、調和よく育成していくことが求められている。学習指導要領では、「A表現」を「発想や構想の能力」と「創造的な技能」に、「B鑑賞」を「鑑賞の能力」に関する指導内容に整理している。表現や鑑賞の授業は、これらに示された資質や能力を育成するために行われるものである。そのため、学習評価も「発想や構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」に「美術への関心・意欲・態度」を加えた4観点で行うことを基本としている。

2 美術科における学習評価の観点の趣旨

(1) 評価の観点及びその趣旨

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて豊かに発想し、よさや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて、表現の技能を身に付け、意図に応じて表現方法などを創意工夫し創造的に表している。	感性や想像力を働かせて、美術作品などからよさや美しさなどを感じ取り味わったり、美術文化を理解したりしている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

第1学年の評価の観点の趣旨			
美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
美術の創造活動の喜びを味わい、表現や鑑賞の能力を身に付けるために、主体的に学習に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に豊かに発想し、形や色彩の構成などを工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて材料や用具を生かしたり、制作の順序などを考えたりし、創意工夫して表している。	感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、生活の中の美術の働きなどを感じ取り見方を広げたり、美術文化の特性のよさに気付いたりしている。
第2学年及び第3学年の評価の観点の趣旨			
美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
美術の創造活動の喜びを味わい、表現や鑑賞の能力を高めるために、主体的に学習に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、対象を深く見つめ、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に独創的で豊かな発想をし、形や色彩などの効果を生かし、心豊かで創造的な表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて、材料や用具の特性を生かし、表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考えたりするなどし、創意工夫して創造的に表している。	感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わったり、生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化などについての理解や見方を深めたりしている。

3 美術科の評価規準の設定

美術科の学習評価は、生徒の発達の段階を考慮し、学習評価にできるだけ客観性と信頼性をもたせるように指導のねらいや評価規準を明確にするとともに、より一層効果的・効率的な学習評価ができるよう創意工夫する必要がある。特に評価規準は、それぞれの題材で学習過程ごとに発揮される生徒の資質や能力を鑑み、評価したい内容を明確に焦点化することが重要である。加えて、「美術への関心・意欲・態度」の観点は、他の三つの観点と関連させて扱うこと、すべての評価規準の文末を「～している。」と表記することも押さえるべき内容である。

- (1) 評価規準は「評価規準の作成のための参考資料」を参照し、以下の内容に留意して設定する。
 - ア 「内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項」を十分に生かす。
 - イ 「内容のまとめり」は、各学年とも次の三つとしてとらえる。
 - A表現(1)(3)感じ取ったことや考えたことの表現
 - A表現(2)(3)目的や機能の表現
 - B鑑賞
 - ウ 内容のまとめり「A表現(1)(3)」と「A表現(2)(3)」では、評価規準は、「美術への関心・意欲・態度」「発想や構想の能力」「創造的な技能」の3観点とする。
 - エ 内容のまとめり「B鑑賞」では、評価規準は、「美術への関心・意欲・態度」と「鑑賞の能力」の2観点で作成する。
 - オ 設定する題材が「A表現(1)(3)」と「B鑑賞」のように両方の内容になる場合は4観点になる場合もある。
- (2) 各学校で具体的な評価規準を設定するに当たっては、以下の内容に留意する。
 - ア 既存の学習の指導内容との関連が図られているか。
 - イ 各学年や各題材の相互の関連や発達の段階をおさえた指導を通して、中学校学習指導要領の目標に示された資質や能力等が実現できるように学習活動を計画しているか。
 - ウ 地域や学校の実情を踏まえているか。
 - エ 生徒の発達の段階や実態等を考慮し、生徒が現在において身に付けている資質や能力と今後の学習を通して確保できる資質や能力（学習成果）を明確にしているか。
- (3) 〔共通事項〕については、以下の内容に留意する。
 - ア 〔共通事項〕は「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して指導する内容であるので、別途項目を設けることはしない。しかしながら、評価規準の文言には〔共通事項〕の内容が多くあるので、主なものを下線等で示すようにする。
 - イ 〔共通事項〕の「ア」及び「イ」の内容に順序性は無い。したがって指導する事項に応じて適切な〔共通事項〕の内容を関連付けることができる。
- (4) 学習指導案への生かし方については、以下の内容に留意する。
 - ア 目標の表記は、評価規準と関連付けて設定し、教師が指導した内容（生徒が学習した内容）について評価し、指導と評価の一体化が見えるようにする。
 - イ 〔共通事項〕の文言は常に変わらないが、実際の指導の場面では〔共通事項〕がより具体的になる。そこで、本資料では、題材ごとに「本題材における〔共通事項〕例」として、その題材における顕著な〔共通事項〕を示す。
 - ウ 指導と評価の計画には、次の内容を明記する。
 - 「学習活動に即した評価規準」と「具体的な評価方法」
 - ※本資料では評価事例の指導計画・評価計画で、「学習活動に即した評価規準、【評価方法等】」を示した。
 - 「十分満足できる」と判断される状況（A）であると評価する具体例
 - 「努力を要する」と判断される状況（C）であると評価する生徒への指導の手だて
- (5) 効果的・効率的な学習評価のために、以下の内容に留意する。
 - ア 学習評価は毎時間4観点すべてを行うことは難しい。学習内容に合わせて1単位時間に1～2観点で評価を行うようにする。それに伴い、学習指導案には、評価の場面を数多く設定しないように注意をする。
 - イ 「美術への関心・意欲・態度」は、美術の学習活動に対する関心・意欲・態度である。従って、忘れ物や時間に遅れてくることなどは、直接の学習評価の対象とはならない。
 - ウ 「発想や構想の能力」は主に題材の前半に、「創造的な技能」は主に題材の後半に発揮される能力であり、学習評価の適時性を考慮する。
 - エ 「鑑賞の能力」は主に題材の終盤又は鑑賞の題材で発揮される能力である。制作する作品の参考程度に作品を鑑賞する場合には、十分に発揮される能力とは判断できないので、扱わなくてもよい。評価方法としては、記述や発言だけでなく、表情なども見取る必要がある。
 - オ 題材において重点的に指導する評価規準などを意識して、学期や年間を通じてバランスよく評価規準を設定する。
 - カ 学習評価は単純に累積したり、平均するには適さない内容であることを考慮する。

4 内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例

第1学年

(1) 「A表現(1)(3)感じ取ったことや考えたことの表現」

【「A表現(1)(3)感じ取ったことや考えたことの表現」の評価規準に盛り込むべき事項】

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
美術の創造活動の喜びを味わい、感じ取ったことや考えたことを表現することに関心を持ち、主体的に構想を練ったり材料や用具を生かしたりしようとしている。	感性や想像力を働かせて、対象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考えて創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて材料や用具を生かしたり、制作の順序などを考え、見通しをもったりしながら、創意工夫して表現している。

【「A表現(1)(3)感じ取ったことや考えたことの表現」の評価規準の設定例】

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
対象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさなどを表現することに関心を持ち、主体的に主題を生み出そうとしている。	対象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさなどを基に主題を生み出している。	形や色彩などの表し方を身に付け、表したいイメージをもちながら意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現している。
想像したことなどを表現することに関心を持ち、主体的に主題を生み出そうとしている。	イメージを膨らませて想像したことなどを基に主題を生み出している。	
主題などを基に、主体的に構成を工夫して構想を練ろうとしている。	主題などを基に、全体と部分との関係などを考え、形や色彩の効果を生かして創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。	材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表現している。
形や色彩などの表し方、材料や用具の生かし方などを主体的に工夫して表現しようとしている。		
材料や用具の特性などから制作の順序などを主体的に考え、表現しようとしている。		

(2) 「A表現(2)(3)目的や機能の表現」

【「A表現(2)(3)目的や機能の表現」の評価規準に盛り込むべき事項】

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
美術の創造活動の喜びを味わい、目的や機能を考え、表現することに関心を持ち、主体的に構想を練ったり材料や用具を生かしたりしようとしている。	感性や想像力を働かせて、目的や条件、伝えたい内容、用途や機能、使用する者の気持ちなどを基に美しさなどを考え、表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて材料や用具を生かしたり、制作の順序などを考え、見通しをもったりしながら、創意工夫して表現している。

【「A表現(2)(3)目的や機能の表現」の評価規準の設定例】

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
構成や装飾を考慮して表現することに関心を持ち、主体的に構想を練ろうとしている。	目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて、形や色彩の効果を生かして構成や装飾を考え、表現の構想を練っている。	形や色彩などの表し方を身に付け、表したいイメージをもちながら意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現している。
伝えたい内容について分かりやすさや美しさなどを考慮して表現することに関心を持ち、主体的に構想を練ろうとしている。	他者の立場に立って、伝えたい内容について、形や色彩の効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練っている。	
用途や機能、使用する者の気持ちなどを考慮して表現することに関心を持ち、主体的に構想を練ろうとしている。	用途や機能、使用する者の気持ち、材料などから、形や色彩の効果を生かして美しさなどを考え、表現の構想を練っている。	材料や用具の特徴などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表現している。
形や色彩などの表し方、材料や用具の生かし方などを主体的に工夫して表現しようとしている。		
材料や用具の特性などから制作の順序などを主体的に考え、表現しようとしている。		

(3) 「B鑑賞」

【「B鑑賞」の評価規準に盛り込むべき事項】

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
美術の創造活動の喜びを味わい、身の回りの造形や美術作品、美術文化などに関心を持ち、主体的によさや美しさを感じ取ろうとしている。	感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り見方を広げたり、美術文化の特性やよさなどに気付いたりしている。

【「B鑑賞」の評価規準の設定例】

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などに関心を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。	造形的なよさや美しさ、対象のイメージ、作者の心情や意図と表現の工夫、主題と表現技法の選択や材料の生かし方などを感じ取り、自分の思いや考えをもって味わっている。
目的や機能と美しさの調和、作者の心遣いや願いなどに関心を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。	伝える、使うなどの目的や機能と形や色彩などの美しさの調和、作品全体のイメージ、使う人に対する作者の心遣い、作品に込められた作者の思いや願いなどを感じ取り、自分の思いや考えをもって味わっている。
自然物や人工物の形や色彩などに関心を持ち、主体的にそのよさや美しさ、生活の中の美術の働きなどを感じ取ろうとしている。	身の回りにある自然物や人工物の形や色彩などから、そのよさや美しさ、生活を美しく豊かにする美術の働きなどを感じ取り、自分の思いや考えをもって味わっている。
美術の文化遺産や美術文化に関心を持ち、主体的によさなどを感じ取ろうとしている。	身近な地域や日本及び諸外国の美術の文化遺産などを鑑賞し、そのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化の特性やよさに気付いている。

第2学年及び第3学年

(1) 「A表現(1)(3)感じ取ったことや考えたことの表現」

【「A表現(1)(3)感じ取ったことや考えたことの表現」の評価規準に盛り込むべき事項】

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
美術の創造活動の喜びを味わい、感じ取ったことや考えたことを表現することに関心をもち、主体的に心豊かな表現の構想を練ったり材料や用具を生かしたりしようとしている。	感性や想像力を働かせて、対象を深く見詰め感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に、主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて、材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え見直しをもったりしながら、創造的に表現している。

【「A表現(1)(3)感じ取ったことや考えたことの表現」の評価規準の設定例】

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
対象を深く見詰め感じ取ったこと、考えたことなどを表現することに関心をもち、主体的に主題を生み出そうとしている。	対象を深く見詰め感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、考えたことなどを基に、主題を生み出している。	材料や用具の特性を生かし、表したいイメージをもちながら自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。
夢、想像や感情などの心の世界などを表現することに関心をもち、主体的に主題を生み出そうとしている。	イメージを膨らませて夢、想像や感情などの心の世界などを基に、主題を生み出している。	材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見直しをもって表現している。
主題などを基に、主体的に創造的な構成を工夫して構想を練ろうとしている。	主題などを基に想像力を働かせ、形や色彩の効果を生かして単純化や省略、強調、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。	
材料や用具の特性などを主体的に生かし、表現方法を工夫して表現しようとしている。		
材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを主体的に考え、表現しようとしている。		

(2) 「A表現(2)(3)目的や機能の表現」

【「A表現(2)(3)目的や機能の表現」の評価規準に盛り込むべき事項】

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
美術の創造活動の喜びを味わい、目的や機能を考えて表現することに関心をもち、主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり材料や用具の特性を生かしたりしようとしている。	感性や想像力を働かせて、目的や条件、伝えたい内容、使用する者の気持ちや機能などを基に形や色彩の効果を生かして造形的な美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて、材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え見直しをもったりしながら、創造的に表現している。

【「A表現(2)(3)目的や機能の表現」の評価規準の設定例】

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
簡潔にしたり総合化したりするなどして構成や装飾を考えて表現することに関心をもち、主体的に構想を練ろうとしている。	目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて形や色彩、図柄、材料、光などの組合せを簡潔にしたり総合化したりするなどして構成や装飾を考え、表現の構想を練っている。	材料や用具の特性を生かし、表したいイメージをもちながら自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。
伝えたい内容を多くの人々に分かりやすさや美しさなどを考えて表現することに関心をもち、主体的に構想を練ろうとしている。	伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練っている。	材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見直しをもって表現している。
使用する者の気持ちや機能、夢や想像などを総合的に考えて表現することに関心をもち、主体的に構想を練ろうとしている。	使用する者の気持ちや機能、夢や想像、造形的な美しさなどを形や色彩の効果を生かして総合的に考え、表現の構想を練っている。	
材料や用具の特性などを主体的に生かし、表現方法を工夫して表現しようとしている。		
材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを主体的に考え、表現しようとしている。		

(3) 「B鑑賞」

【「B鑑賞」の評価規準に盛り込むべき事項】

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
美術の創造活動の喜びを味わい、身の回りの造形や美術作品、生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化などに関心をもち、主体的に見方や理解を深めようとしている。	感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。

【「B鑑賞」の評価規準の設定例】

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
形や色彩などの特徴や印象、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。	形や色彩などの特徴や印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。
目的や機能との調和のとれた洗練された美しさ、つくり手の意図や願いなどに関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。	目的や機能との調和のとれた洗練された美しさ、作品全体のイメージ、つくり手の意図や願いなどを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。
美術作品などに取り入れられている自然のよさなどに関心をもち、主体的に生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解しようとしている。	美術作品などに取り入れられている自然の形や色彩、材料などからよさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解している。
自然や身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどに関心をもち、主体的に生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解しようとしている。	自然や身近な環境の中に見られる形や色彩、材料などの造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解している。
日本の美術の概括的な変遷や作品の特質などに関心をもち、主体的に日本の美術や伝統と文化などを理解しようとしている。	日本の美術の概括的な変遷や作品の特質などをとらえ、日本の美術や伝統と文化のよさなどを味わい理解している。
日本と諸外国の美術や文化の相違と共通性などに関心をもち、主体的に美術文化への理解を深めようとしている。	日本と諸外国の美術や文化との相違と共通性に気付き、それぞれのよさや美しさなどを味わい、美術を通じた国際理解を深め、美術文化を継承し創造していくことの意義を感じている。

第3 指導と評価の実際

評価事例1 「発想や構想の能力」と「美術への関心・意欲・態度」に焦点を当てて評価する

1 題材名 「心の中の世界」【第2学年及び3学年】A表現(1)(3)及びB鑑賞

(関連：自分を見つめてI—平面表現・自画像—) ※埼玉県中学校教育課程編成要領 P82 (平成21年3月参照)

2 題材について

本題材は自分の心の中を探り、そのイメージに適した表現材料を選び、新鮮で自分らしい表現を工夫しながら制作をする題材である。多感で悩み多き年頃の中学2年生にとって、自分自身を客観的に見つめ直す機会の一つとしてとらえて欲しいと考え、本題材を設定している。

3 目標及び評価規準

(1) 目標

心の世界の表現に関心をもち、自己の内面を深く見つめ、考えたこと、夢、想像や感情などを基に構想を練り、表現意図に応じた材料や技法を生かし、創意工夫して表現するとともに、他者の作品から作者の心情や意図と、創造的な表現の工夫などを感じ取り味わう。

(2) 本題材における〔共通事項〕例

○表現や材料の形や色彩などの性質や、それがもたらす感情などを理解すること。(ア)

○自分の心の中と向き合い、表現したい世界のイメージをとらえること。(イ)

(3) この題材における評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
表 美術の創造活動の喜びを味わい、心の中の世界を表すことに関心を持ち、主体的に心豊かな表現の構想を練ったり材料や用具の特性を生かしたりしようとしている。 鑑 美術の創造活動の喜びを味わい、他者の作品に関心をもち、主体的に見方や理解を深めようとしている。	感性や想像力を働かせて、心の中を探り感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に、主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて、材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫し、創造的に表現している。	感性や想像力を働かせて、自他の作品の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わっている。

4 指導計画・評価計画 (10時間扱い)

*アンダーラインは、〔共通事項〕に関連した主な内容を示す

学習のねらい・学習活動 ●：学習のねらい ◇：学習活動	学習活動に即した評価規準【評価方法】			
	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1 題材の把握と発想・構想 (2時間) ● 自己の内面を見つめ直し、主題を基に構想を練る。 ◇ 表現したい主題を基に、アイデアスケッチなどにより構想をまとめる。	夢、想像や感情などを表現することに関心を持ち、主体的に主題を生み出し構想を練ろうとしている。【観察・表現】	イメージを膨らませて夢、想像や感情などの心の世界などを基に、主題を生み出している。【表現・作品】 主題などを基に想像力を働かせ、 <u>形や色彩の効果を生かして単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を練っている。</u> 【表現・作品】	材料や用具の特性を生かし、 <u>表したいイメージをもちながら自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫し創造的に表現している。</u> 【表現・作品・対話】	形や色彩などの特徴や印象などから内面や全体の感じ、価値や情緒、 <u>対象のイメージ</u> などをとらえ、よさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取っている。【発言・記述】
2 制作 (7時間) ● 構想を基に、自分の表現意図に合う表現方法を工夫する。 ◇ 表現意図に応じた材料や技法を用いて制作をする。	材料や用具の特性などを主体的に生かし、表現方法を工夫して表現しようとしている。【観察】			
3 鑑賞 (1時間) ● 他者の作品から、作者の主題、意図と創造的な表現の工夫等を感じ取る。 ◇ 作品発表会を行い、自他の完成作品を鑑賞し合う。	形や色彩などの特徴や印象などから内面や全体の感じ、価値や情緒などをとらえることに関心を持ち、主体的によさや美しさ作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取る。【発言・記述】			

完成作品から

○ **発想や構想の能力** 主題などを基に想像力を働かせ、形や色彩の効果を生かして単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考えて表現している。

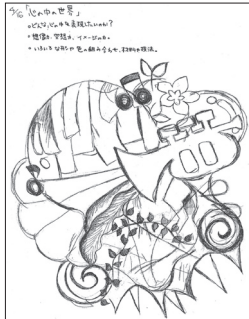
○ **創造的な技能** 材料や用具の特性を生かし、表したいイメージをもちながら自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。

5 生徒の活動と学習評価の実際

- (1) 評価の時期…アイデアスケッチを中心に、途中経過作品・完成作品・作品発表会での様子などにより適時行う。
- (2) 読み取り内容
 - ① アイデアスケッチにおいて、主題を生み出している。
 - ② 制作カードや自己評価カードに、心の中の様子や思い、考えを記述している。
 - ③ 生徒との対話や、作品発表会において、自分の考えを伝えている。

(3) 評価事例

①【A評価→A評価の例】



アイデアスケッチ



完成作品

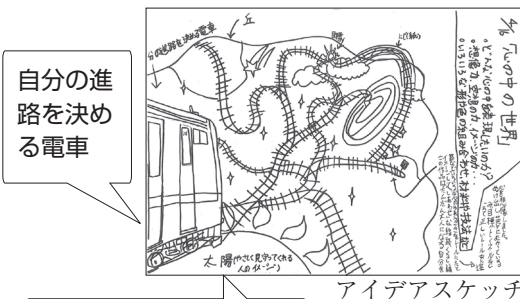
制作カード

題名「心に響くファンファーレ」

説明…いやなことがあって、心の中が暗い気持ちになっている時に、先輩の言葉「また、頑張ろう」という何気ない一言がトランペットのファンファーレのように鳴り響きました。そんな私の気持ちをイメージしてつくりました。

この表現は、アイデアスケッチの段階から、発想や構想の能力を発揮している。主題を生み出すことが早期にできており、そのまま完成まで、自分の思い描くイメージに沿って制作に取り組んでいる。吹奏楽部に所属してこの生徒の先輩との関係や楽器への思いも制作カードから読み取ることができる。

②【B評価→A評価の例】



自分の進路を決める電車

太陽はやさしく見守ってくれる人のイメージ

アイデアスケッチ

この作品は、だんだん大人になる自分をイメージして、「しあわせ」な線路、「苦しい」線路など、いろいろな心のゆれや動きをレールにたとえて正しいレールを進み、目標トンネルを抜け出し、夢に向かっていく心を想像しました。



完成作品

※吹き出し内はアイデアスケッチに記述された生徒本人の説明である。

制作カード

題名「Go! train- 自分の心から未来に向けて出発進行-」

説明…雲は心のモヤモヤ感を、伸びる、また曲がるレールは、挫折してもまだ可能性が残されていることをイメージし、そして太陽は、優しく見守ってくれる両親をイメージしました。走る車両は、ぼくにとって思い出のある209系にしました。

発想や構想の能力の評価

この生徒は、小さい頃から鉄道に関する興味・関心が高く、知識も豊富である。そしてこの作品は、自分の好きな対象と結び付けて考えることで、どんどんイメージが広がった例である。主題を生み出すと、アイデアスケッチにも思い付いたことを書き込み、材料の特性などを主体的に生かし、表現しようとしている。制作に向けての意欲の高さが感じられる。線路を表す材料を組み合わせたり、アイデアスケッチを単純化したりして考えをめぐらしながら、制作している。発想や構想の能力の評価はB評価→A評価とする。

③【C評価→B評価の例】



アイデアスケッチ



完成作品

題名 「ぼくの悩み」

説明…ぼくは、柔道とバスケットボールをやっていて、いつも柔道とバスケの両立が難しく、この作品はそういう意味を込めてつくりました。

発想や構想の能力の評価

この生徒は、初めなかなか主題が生み出せず、アイデアスケッチの段階でも、しばらくスケッチブックが白いままである(C評価)。そこで、「今何をしている時が楽しいの?」とか「悩んでいることなどはない?」などの投げかけをするうちに自分の中で主題を生み出し、それ以降は、好きな柔道とバスケットボールとの両立に悩む自分の心の世界を表現しようと、黙々と真剣に制作に取り組んでいる。そして作品発表会では、自分の表現を生み出すことができたという達成感に満ちた表情で、堂々と発表を行っている。「発想や構想の能力」は、生徒の表現の過程の中で変化するものであることから、随時更新して、生徒のよさを学習評価する必要がある。

評価事例2 「創造的な技能」と「美術への関心・意欲・態度」に焦点を当てて評価する

1 題材名 「自分の色 自分の形」—マイバッグをデザインしよう—
 【第1学年】A表現(2)(3)及びB鑑賞（関連：季節の色・季節の形—色彩を学ぶ—）

※埼玉県中学校教育課程編成要領 P78（平成21年3月参照）

2 題材について

本題材では、基礎的な色彩の学習を踏まえ、自分らしさのある表現を考えて作品保存用のマイバッグをデザインする。中学校初めてのデザインの学習としては、様々な材料や用具を工夫し豊かな表現を進めるとともに、形や色彩の効果を生かして単純化や省略、強調、材料の組合せなどをもとにした意図的な表現を計画的に進めることを大切にさせたい。

3 目標及び評価規準

(1) 目標

形や色彩、図柄などの中に創造的な美をつくりだしていくことに関心をもち、自分自身のイメージや思いをヒントに美的感覚を働かせて作品保存用のバッグのデザインを練る。

(2) 本題材における〔共通事項〕例

- 形や色彩、材料などの性質やそれらがもたらす感情を理解する。(ア)
- 自分が表したい感じを意識しながら、形や色彩の特徴などを基に対象のイメージをとらえる。(イ)

(3) この題材における評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
表 美術の創造活動の喜びを味わい、目的や機能を考えて自分ならではの表現をすることに関心をもち、主体的に構想を練ったり材料や用具を生かしたりしようとしている。 鑑 生活を豊かにする日用品のデザインに関心をもち、主体的に他の作品からよさや美しさを感じ取ろうとしている。	感性や想像力を働かせて、表現したいバッグの目的や条件、伝えたい内容、用途や機能、使用する自分の気持ちなどを基に美しさなどを考え、表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身に付け、考えたバッグのイメージをもちながら意図に応じて材料や用具を生かしたり、制作の順序などを考え見通しをもったりしながら、創意工夫して表現している。	感性や想像力を働かせて、自分や他者のバッグの造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り見方を広げている。

4 指導計画・評価計画（10時間扱い）

※アンダーラインは、〔共通事項〕に関連した主な内容を示す

学習のねらい・学習活動 ●：学習のねらい ◇：学習活動	学習活動に即した評価規準【評価方法】			
	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1 題材の把握と発想や構想（2時間） ●自己の性格や特徴を見つめ、表現意図をもって構想を練る。 ◇自分のマークを中心にバッグ全体の構想をアイデアスケッチにまとめる。	自分自身について考え、伝えたい内容を分かりやすく美しく表現することに関心をもち、主体的に構想を練ろうとしている。【観察・表現】	目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて、 <u>形や色彩の効果を生かし</u> 、自分らしさのある構成や装飾を考え、表現の構想を練っている。【表現】	形や色彩などの表し方を身に付け、 <u>表したいイメージをもちながら</u> 、材料や用具を効果的に生かし、創意工夫して表現している。【表現・作品】	
2 制作（7時間） ●構想を基に、表したいイメージに合った表現方法を工夫する。 ◇材料や用具を工夫し、見通しをもって表現する。	形や色彩などの表し方、材料や用具の生かし方などを主体的に工夫して表現しようとしている。【観察・記述】	自分の考えたイメージに合わせて、 <u>形や色彩の効果を生かして</u> 分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練っている。【表現】	制作の順序を考えながら見通しをもって美しく表現している。【表現・作品・観察】	
3 鑑賞（1時間） ●自他の作品から感じ取ったことを基に批評し合う。 ◇制作カードに自分の作品についてまとめる。 ◇他者の作品のよさや美しさ、作者の思いを感じ取り、相手に伝える。	目的や機能と美しさの調和、作者の心情や意図と表現の工夫などに関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。【観察・記述】			目的や機能、形や色彩などの美しさの調和、 <u>作品全体のイメージ</u> などを感じ取っている。【記述・発言】

完成作品からの評価

- **発想や構想の能力** 自分のマークを中心に、美的感覚を働かせて、構成や装飾を考え、表現の構想を練っている。
- **創造的な技能** 形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現している。

5 生徒の活動と学習評価の実例

- (1) 評価の時期…アイデアスケッチ・制作途中の作品・完成作品から適時行う。
- (2) 読み取り内容
 - ① アイデアスケッチにおいて、色のまとまりや対比などを考え計画的に表現している。
 - ② 制作途中の作品において、表したいイメージをもちながら新たな表現方法を工夫している。また制作の順序などを考えながら見直しをもって表現している。
 - ③ 完成作品において、自分が表したい感じを意識し、形や色彩の特徴などを基に対象のイメージをとらえて表している。
- (3) 評価事例

①【創造的な技能のB評価→A評価の例】

【美術への関心・意欲・態度のC評価→B評価の例】

アイデアスケッチ



制作途中の評価 その1

アイデアの基は自分の好きな蝶と黄色い色であり、発想が安易である。蝶への思いが明確になるよう声をかけた。

題名「舞い上がるバッグ」

制作途中の評価 その2

黄色と黒の背景に紫を基調とした蝶のデザインを描き、補色対比を活用している。さらに、飛び立とうとする思いが蝶への装飾的な表現として加わった。



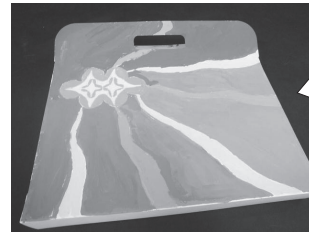
完成作品からの評価

飛び立とうとするイメージを表すために、切り抜いた星の形を効果的に配置していることや蝶の縁にビーズ等の材料を工夫しているところに創造的な技能が読み取れる。蝶への思いを定め、新たな表現を工夫するなど主体的に取り組むところに関心・意欲・態度も読み取れる。

②【創造的な技能のC評価→B評価の例】

題名「いやし系バッグ」

制作途中の評価



アイデアがなかなか定まらなかったが、雲形定規でマークをつくり上げた。「自分らしさのある形だね」と称賛すると、さらに曲線を使用し、やわらかなイメージで周りを付け加える。

完成作品からの評価

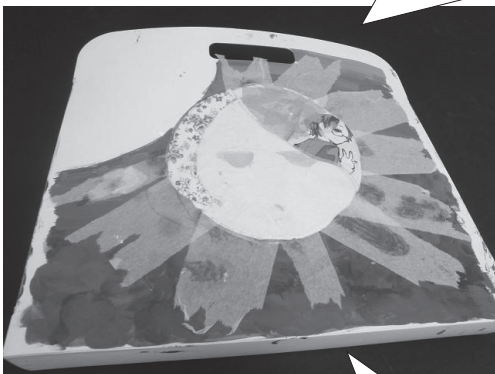
彩度を落としたグレーの背景とオレンジを基調としたマークの彩度対比を活用している。筆の使い方などを工夫するとさらによいと考えるが、表したい自分自身のイメージを形と色で表現しようとしている。

③【創造的な技能のA評価→A評価の例】

制作途中の評価 その1

絵の具まみれになりながら背景の調子づくりから制作が始まった。色相・彩度・明度ともに色の対比をうまく活用して、楽しみながら創意工夫している様子が見られる。

題名「ムーン」



制作途中の評価 その2

自分の顔を簡略化してデザインしたマークをバッグの中心に配置した。背景とは補色対比の黄色を中心に彩色し、布を貼ったり、ペンがきで表したりし、工夫も見られる。また、アクリル絵の具で混色と重色を重ね、淡い紫の背景をつくり、おはながみを貼って複雑な調子をつくりあげたところは、表したいイメージをもちながら、材料を効果的に生かして、創意工夫して表現していると判断する。

④【創造的な技能のC評価→B評価の例】

【美術への関心・意欲・態度のC評価→A評価の例】

制作途中の評価 その1

思いのままに活動している生徒である。今回は、はみ出してもお構いなしの絵の具による彩色から始まった。周りの処理にはながみを勧め、スプレー糊を使った接着を実演すると、高い興味を示し、夢中になっておはながみを貼り続けていく。

制作途中の評価 その2

真ん中のマークを塗り直そうとし、色の対比を意識しながら、色を選び彩色している。「周りの色に比べると、真ん中のマークがはっきりと目立つようになったね。」と称賛する。その後も色の対比を意識し続け、最後に彩色したバットの色も、周りの色との対比を考えながら彩色している様子が見られる。

題名「バットマン」

完成作品からの評価

大好きな野球をテーマにデザインしたマークを真ん中に配し、楽しい思いを色で表している。おはながみを周りに丁寧に貼り巡らし、真ん中のマークとは明度対比が使われている。最後に塗った明るいバットの色が実にマッチしているところから創造的な技能が読み取れる。

評価事例3 「完成した作品」に焦点を当てて評価する

1 題材名 「優しさを石に込めて」【第3学年】A表現(1)(3)及びB鑑賞

(関連：自分を見つめてⅡ～立体表現・「心の形」) ※埼玉県中学校教育課程編成要領 P82 (平成21年3月参照)

2 題材について

本題材は「人の優しさに触れた瞬間」をテーマに、軟石を使用した抽象による立体表現である。中学3年生の進路や人間関係などいろいろな悩みや問題に直面することが多い時期に、本題材のテーマの追求を通して、人は人によって支えられていることに気付かせたい。

3 目標及び評価規準

(1) 目標

人の優しさに触れた抽象の立体表現に関心をもち、自己の内面を深く見つめ感じ取ったこと考えたことを基に、造形的な効果や美しさを生かして創意工夫して表現するとともに、他者の作品から作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わう。

(2) 本題材における〔共通事項〕例

- 軟石の形や材料、光など性質や、それらがもたらす感情を理解する。(ア)
- 形などの特徴を基に、人の優しさや、過去の思い出のイメージをとらえる。(イ)

(3) この題材における評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
表 美術の創造活動の喜びを味わい、抽象表現に関心をもち主体的に表現の構想を練ったり材料や用具を生かしたりしようとしている。 鑑 美術の創造活動の喜びを味わい、他者の作品に関心をもち、主体的に見方や理解を深めようとしている。	感性や想像力を働かせて、対象を深く見つめ感じ取ったことを基に、主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え創造的な形を工夫し心豊かな表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて、材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え見直しをもったりしながら創造的に表現している。	感性や想像力を働かせて、美術の創造活動の喜びを味わい、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わっている。

4 指導計画・評価計画 (10時間扱い)

※アンダーラインは〔共通事項〕に主な関連した内容を示す

学習のねらい・学習活動 ●：学習のねらい ◇：学習活動	学習活動に即した評価規準【評価方法】			
	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1 題材の把握と発想や構想 (2時間) ●自己の内面をふり返り、テーマを決定し構想を練る。 ◇自分の思いを文章にまとめる	題材を理解し主体的に主題を生み出そうとしている。 【記述】	題材からイメージを膨らませてテーマを生み出している。 【記述】		
2 制作 (7時間) ●構想を基にアイデアスケッチを重ね、形を決定し、表現方法を工夫しながら制作する。 ◇安全に適切に用具を扱う。 ◇イメージや形の美しさを大切にしながら制作する。	抽象表現に関心をもち、材料の特性や用具の扱い方等を理解し工夫して表現しようとしている。 【表現・作品】	テーマを基に想像力を働かせ、 <u>材料の特性を生かして単純化や強調、省略、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構想を練っている。</u> 【表現・作品】	軟石の特性や彫刻刃、電動のこぎり等を適切に使い、 <u>イメージを大切にしながら自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫し、創造的に表現している。</u> 【表現・作品】	形の特徴や印象などから、 <u>対象のイメージを感じ取り、造形的なよさや美しさ作者の思いや意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わっている。</u> 【発言・記述】
3 鑑賞 (1時間) ●自他の作品を鑑賞し、よさや美しさを味わう。 ◇他者の作品のよさや美しさを味わい鑑賞し合う。	抽象表現の作品を味わい、よさや美しさを見付け、作者の思いや表現の工夫を感じ取ろうとしている。 【発言・記述】			

完成作品から

- **発想や構想の能力** 主題などを基に想像力を働かせテーマを生み出し、抽象的な形の効果を生かし単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な形を工夫し、心豊かな表現の工夫を練っている。
- **創造的な技能** 材料や用具の特性を生かし、自分のイメージを大切にしながら自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。

5 生徒の活動と学習評価の実際

■ 完成した作品から読み取る、「発想や構想の能力」と「創造的な技能」







(1) 評価の時期…作品完成後（指導をした後の結果としての作品の読み取り）

(2) 読み取りのための評価の方法等（評価規準は、前頁参照）

① 制作カード・自己評価カード等

② 作品

(3) 評価事例

	作品	題名／発表及び記述例	発想や構想の能力	評価	創造的な技能	評価
①		「母と子」 母の愛情をイメージしました。全体の形は、ゆりかごを表現し、母と子の愛情が出るように表現しました。	発表等から題材を深く考え主題を生み出している。イメージした形を単純化、強調、省略により、抽象表現で創造的な形を工夫している。	A評価	自分のイメージに合った表現方法を模索し工夫している。材料の特性や用具を生かし、創造的に表現している。	A評価
②		「母の愛」 まず「母」をイメージしました。ハートの中に逆のハートをつくり、やさしい母と時に怒ってくれる母を表しました。	記述等から前向きな作者の表現意図が分かる。ハートは既成の形であるので、独創的な形であるとは言えない。	B評価	自分のイメージに合った表現方法を模索し工夫している。材料の特性や用具を生かし、創造的に表現している。	A評価
③		「思いやりの輪」 思いやりをイメージしました。優しさが重なり合うような感じで制作しました。仕上げは気持ちを込めて磨きあげました。	発表等から題材を深く考え主題を生み出している。イメージした形を単純化、強調、省略により、抽象表現で創造的な形を工夫している。	A評価	イメージした形を、材料や用具を的確に使用し、表現を工夫している。 しかし、仕上げの段階で磨きが不十分である。	B評価
④		「時間」 私は、過ぎてゆく時間の中で嬉しかったことを表しました。下の土台が時間の流れで、上は喜んでいる自分です。	記述等から、題材の把握が十分でないが、自分のイメージで表現している。台座は切断してから、ずらして構成し接着しており、工夫した表現している。	B評価	イメージした形を、材料や用具の特徴を生かし、表現を工夫している。 偶然にできた表現も見られるが、仕上げなど丁寧である。	B評価
⑤		「つながり」 人と人のつながりを表しています。石の先端は、手を表していて、人の手が合わさるように考えました。	発表や記述から、題材をとらえ自分の主題から作品を生み出している。主題から形への思考が十分ではなく、単調な形になっている。	B評価	指導／削ったり磨いたりする方法を個別に提示し、自分に合う方法を見付けさせる。 切断でできた歪みを思い通りに修正することができずに終わる。	C評価
⑥		「無題」 何となくできた形です。ハートをイメージしてつくりました。	指導／主題を生み出せるよう個別に話をしたり、イメージをもてるように一緒にスケッチしたりする。 主題の生み出しが不十分であり、構想もはっきりとしない状態で終わる。	C評価	指導／切断後、凹凸をつけたり、紙やすりで磨いたりできるように用具や方法を個別に提案する。 軟石の切断や磨きへの工夫が見られずに終わる。	C評価

※C評価（「努力を要する」状況）と判断される生徒には、次題材において、指導と評価を重点的に行っていく。

評価事例4

「鑑賞の能力」と「美術への関心・意欲・態度」に焦点を当てて評価する

1 題材名

「私たちが受け継ぎ、残すものつくるもの」—ガウディの建築とともに暮らす—
 【第2学年及び3学年】B鑑賞（関連：建築の美学—文化遺産について学ぶ—）

※埼玉県中学校教育課程編成要領 P82（平成21年3月）参照

2 題材について

世界中のすべての文化は長い歴史の中で生まれ、はぐくまれ、今に伝えられている。途中で失った文化や芸術も多くあるが、守られて今に伝わり、生活の中で使われ続けられているものも数多くある。本題材では、ガウディの建築とそれを受け継いでつくり続ける人たちがそこに生活する人たちの思いを通して、文化は自分たちが守りつくり上げていくものであることを自覚させ、その大切さを学ばせたい。

3 目標及び評価規準

(1) 目標

ガウディの建築の鑑賞を通して造形的なよさや美しさを味わうとともに、自国の文化を継承し守り続けるバルセロナの人々の思いを共感的に理解し、美術の働きや美術文化などについての理解や見方を深める。

(2) 本題材における〔共通事項〕例

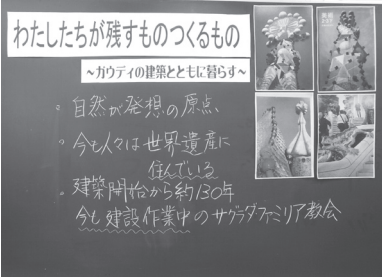

- ガウディの建築の形や色彩、材料などの性質やそれらがもたらす感情を理解すること。(ア)
- 形や色彩の特徴などを基に、ガウディの建築のイメージをとらえること。(イ)

(3) この題材における評価規準

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
生活を美しく豊かにするガウディの建築のすばらしさと、バルセロナの人々が継承し守り続ける美術文化などに関心をもち、主体的な見方や理解を深めようとしている。	感性や想像力を働かせて、ガウディの建築の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを味わい感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化などについての理解や見方を深めている。

4 指導計画・評価計画（1時間扱い）

※アンダーラインは、〔共通事項〕に関連した主な内容を示す

学習のねらい・学習活動 ●：学習のねらい ◇：学習活動	学習活動に即した評価規準【評価方法】	
	美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
<p>1 題材の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ガウディの建築に関心をもち。 ◇不思議な建物について自由に発言したり、文章で表現したりする。 <p>2 鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ガウディと、その作品の特徴について知り、作者の主題、意図や表現の工夫等を感じ取る。 ◇資料等からガウディの発想の原点を知り、意見や感想をまとめる。 ●自分の価値意識をもつとともに、他者の価値観に対しての相違と共通性に気づき、それぞれのよさを知る。 ◇作品について意見や感想を交換し発表する。 <p>3 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●身近なところにも目を向け、美術と関連付けながら自分のできることを考える。 ◇作者の目指したものを踏まえ、美術と自分とのかかわりについて考え、授業の感想をまとめる。 	<p><u>ガウディの建築の造形的なよさや美しさ</u>、作者の心情や意図と表現の工夫などに関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。</p> <p>【観察・発言・記述】</p>  <p>わたしたちが残すものつくるもの ～ガウディの建築とともに暮らす～ ・自然の発想の原点 ・今も残る世界遺産に住んでいる ・建築開始から約130年 今も建設作業中のサグradaファミリア教会</p>	<p><u>ガウディの建築の造形的なよさや美しさ</u>、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを味わい感じ取っている。</p> <p>【観察・発言・記述】</p> 
	<p>ガウディの建築の鑑賞を通して、バルセロナの人々が継承し守り続ける美術文化などに関心をもち、美術文化などについての理解や見方を深めようとしている。</p> <p>【記述】</p>	<p>自国の文化を継承し守り続けるバルセロナの人々の思いを共感的に理解し、美術文化を継承し、創造していくことの意義を感じている。</p> <p>【記述】</p>

5 生徒の活動と学習評価の実例

■ 活動の様子から評価する「美術への関心・意欲・態度」と「鑑賞の能力」

(1) 評価の時期…授業中

(2) 読み取り内容【観察・発言】の評価規準

- ① ガウディの建築に関心をもち、主体的によさや美しさ、作者の心情や意図を感じ取ろうとしている。 **関**
- ② ガウディの建築に取り入れられている自然の形や色彩、材料などの視点から、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解している。 **鑑**

「美術への関心・意欲・態度」B評価の事例

「いろいろな色のタイルがきれい。」
「私は、建築なのに動き出しそうな感じがいいと思う。」
「ライトアップされると雰囲気が変わってまたいいよね。」

指導の手だて

単に感じたことを述べ合うだけでは学習活動は深まらない。他者の価値意識に対して自分の意見を述べるように助言する。



「美術への関心・意欲・態度」C評価の事例

「すごい。」
「行ってみたい。修学旅行先が、バルセロナならいいのに。」(資料を見ているが、関心は授業のねらいから離れる。)

指導の手だて

形や色彩などに着目して鑑賞できるように教師が豊かに語りかけ、言語活動を充実させる。

「美術への関心・意欲・態度」鑑賞の能力」A評価の事例

時々「わあ」などと小さくつぶやきながら、時間中継続して集中している。メモをとり、形や色彩、材料などから深く作品のよさを読み取っている。

指導の手だて

共感的な言葉がけをし、生徒の意欲を持続させ、さらに考えを深められるようにする。

■ ワークシートから評価する「美術への関心・意欲・態度」と「鑑賞の能力」

(1) 評価の時期…授業中・授業終了後

(2) 読み取り内容【記述】の評価規準

- ① ガウディの建築に取り入れられている自然のよさなどに関心をもち、主体的に生活を豊かにする美術の働きについて理解しようとしている。 **関**
- ② ガウディの建築の鑑賞を通して、美術文化を継承し創造していくことの意義を感じている。 **鑑**

生徒Pのワークシート①

からデキさんは自然を大切にしている人だと思いました。
.....
人々が世界遺産に付いていることは本当にすごいと思いました。
サクラガ、ファミリー教会は長い年月かかっているってとてもお金がかかっているけど、材料が作りあっていることがすごいと思った。
.....
おもしろいと思いました。

「美術への関心・意欲・態度」B評価の事例

建築に取り入れられている自然のよさに関心をもち、美術の働きを理解しようとしている。(.....線部)



わたしたちが受け継ぎ、残すものつくるもの
—ガウディの建築とともに暮らす—

第一印象

不思議で面白い

2年5組(△)○○○○
アントニオ・ガウディ
(1852～1926年スペイン)
建築家 スペインのカタルーニャ
地方の自然に多くのヒントを得て、
華麗で装飾的な独自の建築様式を
生み出す。代表的な作品はバルセ
ロナとその周辺に存在。

ワークシート①

思ったこと・考えたこと(資料等から)

今もなお、建設作業しているなんてすごい
思ったし、ガウディさんの作品は市民の大切
なものとして残っているのだと思いました。

授業を終えて

ガウディさんの作品のすごさがよくわかりました。
ガウディさんの作品は自然のことをヒントに多くの
作品を作っています。だから「自然を大切に」とい
う思いが作品に詰まっていると思いました。

ワークシート②

思ったこと・考えたこと(資料等から) 生徒Qのワークシート①

アントニオ・ガウディは、自然が持っているから、自然と人の関わりを表現
している人だと思いました。なので、作品に海や空を表現した油線
が気に入りました。
世界遺産に今も人が住んでいるのは、人の作品を大切に扱っている
からだと思います。
今も、その建築作業が続いているのは、人が完成したものが見たいという希望が
あるからだと思います。

「美術への関心・意欲・態度」A評価の事例

資料の種々の要素を深く読み取り、主体的によさを感じ取ろうとしている。(.....線部)

授業を終えて

生徒Qのワークシート②

からデキさんは、自然と人の関わりを表現しているから、私は、自然
を大切にしている作品を気に入りました。自然と人、人と人との
関わりが大事にされているから、今も建設作業が続いている
のは、みんなが住んでいるからだと思います。私も、自然の
美しさを感じたいから、自然のよさを大切にしようと思います。自然のよさを
大切にしようから関心しています。

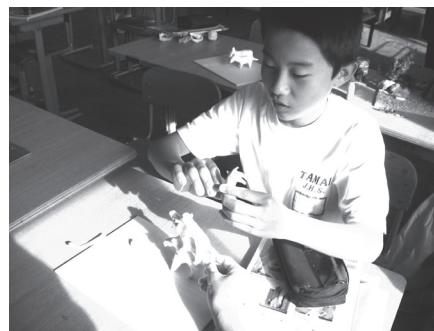
「鑑賞の能力」A評価の事例

感じ取ったことから自分なりに考えをまとめ、記述するように助言した。感性や想像力を働かせて作者の心情や意図を深く感じ取っていることが読み取れる。(.....線部)

評価事例5 自己評価と相互評価の方法

1 学習評価に当たって

学習評価に当たっては、指導と評価の一体化を図る視点に立った指導・評価計画を作成するとともに、生徒が自らの学習を振り返り、表現や鑑賞の活動の意義を確認するために自己評価や相互評価を学習活動の中に適切に位置付けていくことが大切である。その際、生徒が自らの作品や他者の作品について、より適切な評価が行えるよう発想や構想のよさや独自性、創造的な技能、形や色彩などの美しさなど、具体的な視点から作品を鑑賞できるように指導したい。



友人のアドバイスを作品に生かす

2 【共通事項】と言語活動の充実

自己評価や相互評価において、【共通事項】として示された内容を生かすとともに、充実した言語活動が行えるように次のことに留意する。

(1) ワークシートに自分の感想を文章としてまとめたり、他者と意見交換や批評会を行ったりする場面を設定する。

	自己評価	相互評価
対話	教師の問いかけにより、自らの表現や活動を振り返る。	制作の途中の表現等を見合ったり話したりする。
話し合い	自分の表現や活動への思いを語る。	グループまたは学級で表現や活動について感じたことや思ったことを話し合う。
記述	制作途中や学習のまとめでワークシート等を書く。	カードや付箋に感想を書いて交換し合う。

(2) 【共通事項】の「形」や「色彩」、「イメージ」の三つの視点を明示し、形や色彩、イメージなどに関する言葉を具体的に用いながら、自分の考えがまとめられるようにする。

(3) 教師自らが、【共通事項】を意識しながら、造形的な語彙を交え、豊かに語り聞かせ、評価し、励ましの言葉がけを行う。

(4) 生徒自身が評価しなかった部分についても、作品や制作途中の観察等を通して、適切に評価する。

(5) 言語活動そのものの評価とならないように注意する。

*参考資料「学力向上のための授業改善ヒント集 中学校編2『言語活動の充実』」

3 具体的な評価の場面

事例1 『ペーパークラフト／浮世絵写し』 中学3年 男子



【評価の観点】及び「おおむね満足できる」状況

【評価方法】

◆「努力を要する」と判断される生徒への手だて

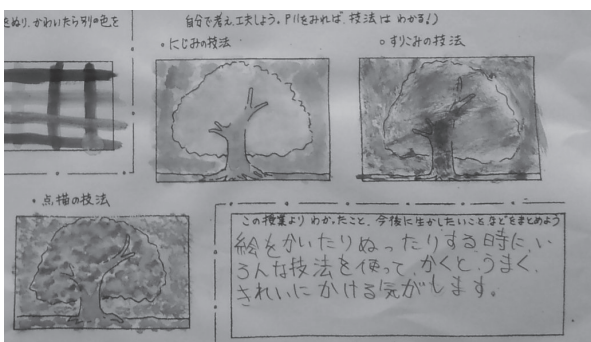
◀作品完成後の感想から▶ 【記述】

浮世絵の繊細な表現を立体に表すため、いろいろな紙を使ったり、紙に膨らみをつけたり、細く切った紙を貼り合わせたりし、試行錯誤を重ねて完成させました。特に髪の毛の表現を見て欲しいです。

【鑑】 浮世絵の特徴として「繊細な表現」を感じ取っている。

【創】 自分のイメージに近付けるため、様々な技法を用いて表現している。

事例2 『水彩絵画に親しもう』 中学1年 女子



◀制作の途中の自己評価▶ 【記述】

絵を描いたり、(色を)ぬったりする時に、いろいろな技法を使ってかくと、うまく、きれいに描ける気がします。

(水彩画制作前に、ワークシート形式で様々な技法を体験した後の記述より)

【関】 水彩画の表現技法に関心を持ち、工夫して表現しようとしている。

【発】 身近な木を観察し、形や色の組み合わせ、表現技法について考えている。

事例3 「文字絵・天使の忘れ物」中学1年 女子



＜作品完成後の作者感想＞ 【記述】
 私はこの作品をつくるにあたって、「羽」という文字に繊細で美しい「心」のイメージを込めたいと思いました。そして、その美しい「心」を自由に舞うイメージの「羽」の文字に描き表すことで、私の思いが伝えられるのではないかと考えたのです。
 作品は私のイメージどおりに完成しました。でも、私の「心の羽」にこめた思いが伝わるのか、とても不安でした。

関 身近な「漢字」からイメージを膨らませ、自分の思いをこめて表現している。
 発 「羽」のイメージをもとに発想し、羽毛による表現を思い付いている。
 創 表現意図に合わせて、色や形、表現材料を工夫している。

□相互評価では、作者の視点に立ち、作品を共感的に鑑賞する場合と、第3者的な視点から、客観的・分析的に作品を鑑賞する場合が考えられる。両者は厳密に分けられるわけではないが、それぞれの視点をもつことによって、作品に対してより深い理解が得られたり、他者の作品のよさを、自らの創造活動に生かしたりすることができるようになる。

＜鑑賞会における友人の感想＞ 【記述】
 生徒R 「羽という文字を、羽毛で描くことで表現している。背景と文字色のバランスもよく、とてもきれい。」
 生徒S 「羽を一つ一つ大切に、心をこめて描いていました。」
 生徒T 「最初見たときは、本物の羽を貼ったのかと思うくらい、ふんわりと柔らかな感じがいいです。」

鑑 作品をよく鑑賞し、豊かな言葉を用いてまとめている。
 ◆「きれい」だけの感想に終わることなく、鑑賞が深められるように、〔共通事項〕をふまえた言葉がけを行う。
 □意見交換や批評会等を評価の手だてとする際は、教師による観察やワークシートへの記述、ビデオによる記録等を併用し、評価の客観性を高めるようにする。

右の例では、生徒Rは背景と文字色について分析的に評価し、生徒Sは作者の視点から共感的に鑑賞し、評価している。また、生徒Tは描かれた絵から受けた印象を豊かな言葉を用いて評価している。

＜友人の評価を聞いた作者の感想＞ 【記述】
 鑑賞会では、たくさんの友達に作品を見てもらい、「繊細」「きれい」という言葉がならんだメッセージをたくさんもらいました。私の思いが伝わったことがわかり、本当にうれしかったです。

4 その他の評価

美術の学習指導・評価方法を改善する視点として、生徒がどのような思いをもって作品を制作・鑑賞したのかを明らかにすることが重要である。生徒の視点に立って、制作・鑑賞の過程を見直すとともに、適切な評価が行えるよう、制作の記録やポートフォリオなど、多様な評価記録を累積し、活用することが必要である。

また、美術室や教室に作品を掲示したり、学校内の様々なスペースを活用して作品の展示を行うことも、多くの人からの評価を受ける良い機会であるとともに、自らの作品を客観的に振り返るきっかけとなる。



制作途中の相互評価は大きなヒント



美術室の廊下や掲示板を使う



一つ一つの作品を大切に扱う

第4 教師の評価の方法

1 学習評価の方向性

学習指導と学習評価のPDCAサイクルは日常の授業等、教科指導の様々な段階で繰り返されながら展開することが必要である。

現在、教科における観点別学習状況の評価と評定についてはほぼ定着し、実践が積み重ねられ、目標に準拠したきめ細かい評価が実施されている。一方、①学習状況の評価の資料の収集・分析が教師に負担になっている、②学習評価に教師の主観が入っているのではないかと生徒や保護者に不安を感じさせる等の課題がある。(平成21年度文部科学省委託調査「学習指導と評価に対する意識調査」より)

そこで、学習評価を学習指導の改善や学校における教育課程全体の改善に向けた取組と効果的に結び付け、学習指導に係るPDCAサイクルの中で適切に実施することや、学習評価の妥当性、信頼性等の向上を図るとともに教師の負担感を軽減するための組織的・計画的な学習評価を推進する必要がある。具体的には各学校において校長のリーダーシップの下、①学習指導要領に対応した評価規準や評価方法の充実を図り、学校内においてこれらの共有を促進する②評価結果について教師同士で検討する③実践事例を着実に継承する④授業研究等を通じ教師一人一人の力量を向上する⑤保護者に対して評価に関する仕組みについて事前に説明し、また評価結果の説明を充実させることに取り組むことが求められる。

2 美術科における観点別学習状況の評価の時期と学習評価の在り方

美術科においては、効果的・効率的な学習評価を目指して「いつ」「何を」「どのように」「どのような規準で」学習評価するか明確にした指導計画を作成する。その際、題材ごと、時間ごとに4観点すべてを評価するのではなく、題材によって観点の重み付けを変えたり、1時間の授業では1～2観点到絞るなどし、ある程度長い区切りの中で適切な頻度で四つの観点について「おおむね満足できる」状況（B評価）であるかどうかを評価する。

評価の時期	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
A表現 B鑑賞				
導入の段階 (着想・発想・構想)	<ul style="list-style-type: none"> 美術科の学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度が身に付いているかどうかを評価する。 教師の学習指導により身に付けられたことを評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどから主題を生み出しているかを評価する。 伝えることや使うことなどの目的や条件、機能と美の調和などを考えて発想し表現の構想を練っているかを評価する。 		<ul style="list-style-type: none"> 芸術に関する「知識・理解」に関する観点と、自分なりに評価したりするなどの能力に関する観点を一体的に評価する。
制作の段階	<p>評価方法(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業や面談における発言や表情 ワークシートや自己評価シート、感想レポートなど アイデアスケッチ 完成作品 <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価の方法や時期の工夫を推進する。また、授業の挙手や発言の回数といった表面的な状況のみに着目することにならないよう、留意する。 	<p>評価方法(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> アイデアスケッチ 作品 <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 感じ取ったことや考えたことを基にした表現では、主題などを基に表現の構想を練ることを指導し、評価する。 目的や機能を考える表現では、他者に対しても共感が得られるように、造形やその効果に関する客観的な見方やとらえ方を指導し、評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 意図に応じて材料や用具、表現方法などを自由に工夫して表現しているかを評価する。 <p>評価方法(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 制作の様子(観察) 作品 <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 意図に応じて材料や用具を生かし創意工夫して表現する技能と、見通しをもって表現する技能について、指導し評価する。 	<p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 言語活動の充実と関連し、自分の価値意識をもって文章や発言により批評していることを積極的に評価する。 A表現の題材の導入段階において、参考作品を短時間で鑑賞する場合、効果的・効率的な評価を目指して「鑑賞の能力」の評価をしなくてもよい。 表現と鑑賞の関連を図るために作品鑑賞会等を行い、「鑑賞の能力」にかかわる指導や評価を行う機会を積極的に取り入れる。 作品の定まった価値の理解や知識だけで、評価することのないようにする。
まとめ・完成作品から				

※各観点とも目標に準拠した評価を行うが、指導と評価の一体化を目指し、C評価の生徒への手だてを講じた指導計画を作成する。手だてを講じた結果、実現した状況をその題材の評価にする。(評価の見直し)

3 具体的な学習評価の方法

題材の特性やその学習内容、評価項目などにより、主に以下のような評価方法を用いて、学習評価を行う。

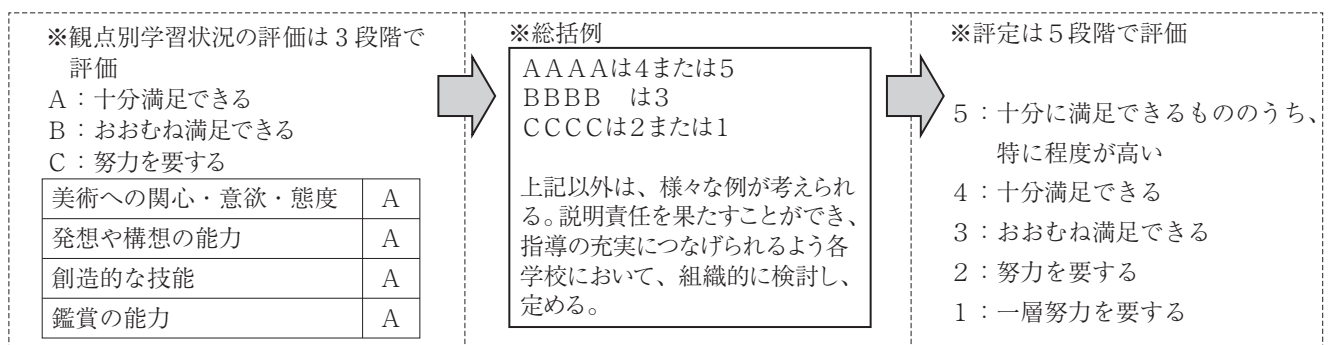
評価方法	具体的な視点、留意点	主に見取ることができる観点
①発言	話し合い活動での発表の様子や制作中のつぶやきなどから評価する。	関 発 創 鑑
②表情・観察	生徒の活動の様子や、表情を見て評価する。「〇〇できる」ではなく、「〇〇している」という状態を見取る。 共同作品や映像作品についてはデジタルカメラ等で静止画・動画撮影を行い、評価情報とすることも有効である。	関 発 創 鑑
③対話	生徒のつぶやき、生徒同士や教師と生徒の対話の内容から評価する。	関 発 創 鑑
④表現・作品	表現結果としての作品だけでなく、アイデアスケッチ、表現途中の生徒の試行錯誤からも評価する。 また完成作品や途中経過の記録写真を利用するのも有効である。	関 発 創
⑤記述	ワークシートや自己評価シート、レポート、定期テストなどから評価する。	関 発 創 鑑

※主に見取ることができる観点は
 関…美術への関心・意欲・態度、発…発想や構想の能力、創…創造的な技能、鑑…鑑賞の能力

第5 美術科における学習評価の評定への総括例

1 観点別学習状況の評価と評定

学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を分析的にとらえ学習評価するものが観点別学習状況の評価であり、総括的に学習評価するものが評定である。どちらも目標に準拠した評価として実施し、生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導要領に示す内容を確実に習得したかどうかを見極め、学習指導の改善に生かすことが重要である。そのためには、評価規準を適切に設定するとともに、実践事例を継承し、組織的・計画的に取り組むことが必要である。



2 題材ごとの観点別学習状況の評価の総括例

【評価事例3】「優しさを石に込めて」の評価簿の例①

※題材により、観点別学習状況の評価の重み付けを変えて評価した例

「優しさを石に込めて」 3年1組1番 氏名〇〇〇〇	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	7時	8時	9時	10時	総合観点	総合得点	備考 (顕著な活動など)	
	美術への関心・意欲・態度	B	B 主体的な取組						A					B
発想や構想の能力	A	B → A テーマ設定						A			A	45/50	指導したこと、生徒の発言などを記録するメモのスペースをつくっておき、指導や評価に役立てる。	
創造的な技能	B		B 意図にあった表現方法・適切な用具の使用						B			B	20/20	
鑑賞の能力	評価がぶれないように、評価規準を明らかにしておく。										A	A	10/10	得点 85/100 評価 A

ある程度の期間内に評価する。指導の手だてを講じた結果、実現した状況の評価とする。

特に発想や構想の能力に重みを付け、この題材を100点満点で評価した例

※その他に評価を○A…5点、A…4点、○B…3点、B…2点、C…1点して5段階で評価するなど、様々な例が考えられる。

3 学期ごとの観点別学習状況の評価及び評価の総括例（各題材の観点別学習状況の評価をまとめ、評定を出す）

(1) 3学年2学期の評価簿（2学期に実施した題材の内容により、評価に傾斜をつけた例）

2学期 3年1組1番 氏名 ○ ○ ○ ○	「自分を見つめて」 「立体的表現の形」	「私たちはアーティスト」 「私たちの作品からメッセージ」	「建築の美学」 「文化遺産について学ぶ」	学期末テスト	評価 二学期総合
時間 / 評価割合	10時間 / 割合1	2時間 / 割合0.2	1時間 / 割合0.1	1時間 / 割合0.1	(合計 14時間 / 割合1.4)
得点 →(×時間数に比例した割合)	観 得点 →×1	観 得点 →×0.2	観 得点 →×0.1	観 得点 →×0.1	観 得点 観点別の得点 (得点率)
美術への関心・意欲・態度	B 10/15 →10	A 15/15 →3.0	A 40/40 →4.0	B 20/30 →2.0	A 19/25 (82%)
発想や構想の能力	A 45/45 →45	B 5/10 →1.0		B 10/20 →1.0	A 47/49 (95.9%)
創造的な技能	B 20/30 →20	A 30/30 →6.0		B 10/20 →1.0	B 27/38 (71.1%)
鑑賞の能力	A 10/10 →10	B 30/45 →6.0	B 45/60 →4.5	B 20/30 →2.0	A 22.5/28 (80.3%)
総括(得点/100点満点) →傾斜をつけた得点	A 85/100 →85	A 80/100 →16.0	A 85/100 →8.5	B 60/100 →6.0	評定 4 115.5/140 (82.5%)

題材の評価から観点別学習状況の評価を導き出すための規準をあらかじめ決めておく。
(例)
80%以上 A評価
79~50% B評価
50%未満 C評価

題材ごとの得点 (100点満点)

授業時間に比例した評価割合で評価した例
(10時間を1とした割合で総括のための得点を算出した例)

テストによる評価もあらかじめ4観点に基づいて評価や配点を決めておく。

観点別評価から評定を導き出すための規準をあらかじめ決めておく。
(例)
90%以上 5
89~80% 4
79~60% 3
59~50% 2
50%未満 1

(2) 学年末の評定例（年間を通して各題材の観点別学習状況の評価をまとめ学年の評定を出す）

2年2組2番 氏名 ○ ○ ○ ○	日本の魅力	絵手紙	心の風景	一学期の観点別学習状況の評価	ルネサンス	立体彫刻	浮世絵と印象派	二学期の観点別学習状況の評価	伝統の色	飛び出すカード	共同制作	三学期の観点別学習状況の評価	学年の評定
美術への関心・意欲・態度	a	b	B	B	A	A	b	A	b	B	a	B	B(69%)
発想や構想の能力		b	Ⓑ	B	Ⓐ	Ⓐ		A		Ⓑ	a	B	A(81%)
創造的な技能		b	B	B	B	Ⓐ		B		B	a	B	B(62%)
鑑賞の能力	a	b	A	A	A	A	b	A	b	A	a	A	A(80%)
学期の総括	3 (66%)				4 (80%)				3 (71%)				3 (73%)

各学期の評価や評定が同じ場合は学年の総括も同じになる。B→A→Bなどそれ以外の場合は、出現率の高いものを重視しながら、観点の趣旨に照らし合わせて実現状況を把握し評価する。

長時間題材を5段階評価、短時間題材を3段階評価にして傾斜をつけた例

表計算ソフトなどを活用して、Ⓐ…5点、A…4点、Ⓑ…3点、B…2点、C…1点、a…3点、b…2点、c…1点で計算し、効率的に学習評価する例。

(3) 個人内評価について

観点別学習状況の評価と評定では十分示し切れない一人一人のよい点や可能性などを、個人内評価として適切な時期に行い、指導と評価の一体化を図ることも大切である（制作中の助言・制作カードへのコメントなど）。個人内評価においても生徒に身に付けさせたい資質や能力を明確にし、それに照らして学習評価を行うことが重要である。また言語活動を充実させるためにも、〔共通事項〕の視点を取り入れ、豊かに語りかけたい。

※言葉がけの例

「そのとおりだね、先生もこの色がとてもいいと思います。」→生徒自身の言葉を復唱し、自分のよさを再発見させる言葉がけ

「ピンクを中心とした明度の高い配色がとてもきれいですね。」→〔共通事項〕の視点を取り入れた言葉がけ